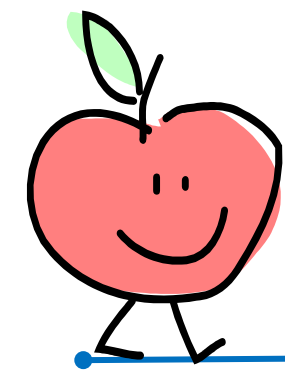


# 果樹園芸学研究室

Laboratory of Fruit and Fruit Tree Science

山形県内で栽培される多様な果樹を対象に、良品質果実の安定生産を目指した研究を行っています。また、実際の果樹栽培にも触れるために、研究室実験圃場に植栽されている果樹(オウトウ・カキ・リンゴ・セイヨウナシなど)は学生が主体となって管理しています。



## 教員紹介

たいら

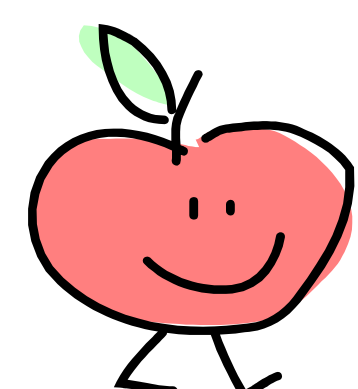
さとし

平 智 教授



専門: 果樹園芸・園芸利用学

- ・果実の発育と成熟の生理に関する研究
- ・果実の加工適性に関する研究
- ・人間と果物との関わりに関する研究 など



## 2021年度の卒業論文のテーマとその概要

### モモ新系統‘MP1’と‘川中島白桃’の生理生態的特性ならびに果実の発育と品質の比較

モモ‘MP1’は糖度が高く、果肉が硬い特徴を有する新系統です。山形市の商業果樹園で発見されました。しかし、結実特性や品質などに関する基礎的なデータはまだありません。

本研究では、同系統の生態的特性と果実の発育ならびに品質を‘川中島白桃’と比較をしながら調査します。



発育途中の モモ ‘MP1’ 果実

### 樹上脱渋の処理時期と脱渋方法の違いがカキ‘平核無’果実の果肉硬度ならびに貯蔵性に及ぼす影響

渋柿を食べるには脱渋処理が必要です。脱渋方法には様々なものがありますが、それらの違いにより脱渋果の硬さなどの品質に差異が生じます。

本研究では果肉の硬さに特に注目し、脱渋方法の違いが果実品質や貯蔵性に及ぼす影響を調査します。



カキ ‘平核無’ 果実

### 樹体単位での摘蕾条件の変更がカキ‘平核無’果実の発育と品質におよぼす影響

大きくて品質のよいカキ果実を生産するためには適切な摘蕾または摘果作業が重要です。現在‘平核無’の摘蕾は一枝一蕾が標準になっています。

本研究では、樹体全体の摘蕾基準を2枝1蕾、4枝1蕾に変更したときの果実の発育と品質に及ぼす1年目の影響について調査します。

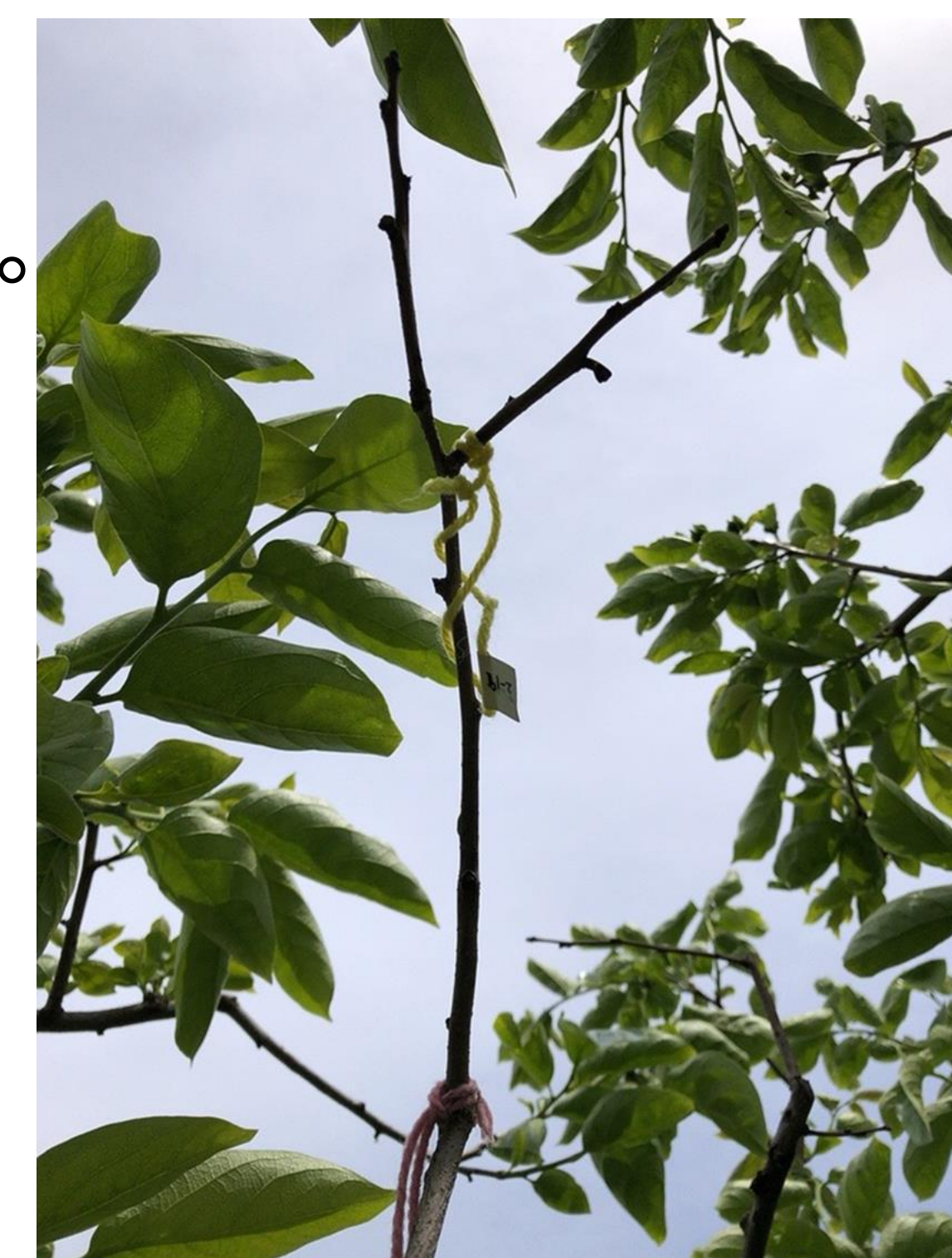


摘蕾作業を行う前のカキ‘平核無’の花蕾

### 晩霜害がカキ‘平核無’果実の発育ならびに品質に及ぼす影響

霜害は果実の収穫量や品質に影響し、収量や果実品質の低下を招きます。山形県では今春に発生した晩霜の影響でオウトウやリンゴを中心に被害が発生しました。庄内地方ではカキ‘平核無’にも過去数十年に例のないレベルの被害が確認されています。

本研究は、晩霜害を受けた‘平核無’の被害程度と果実の発育と品質に及ぼす影響を調査します。



晩霜害を受けたカキ ‘平核無’の結果母枝

### 山形県におけるセイヨウナシ栽培品種の変遷に関する調査研究

山形県のセイヨウナシの収穫量は全国の約65%を占めていますが、現在‘ラ・フランス’がそのほとんどを占めています。山形県のセイヨウナシの生産は1800年代に始まり、昭和初期には缶詰加工用の‘バートレット’が主に生産されていました。その後、生食用‘ラ・フランス’の生産が増加しました。

本調査研究では、山形県ではなぜ‘ラ・フランス’の生産が盛んになったのかについて、他県の状況なども参考にしながら調査します。



高畠町にある国内最古木とされる‘ラ・フランス’



オウトウ雨よけハウスのビニル張り作業の様子